

激動の経営

社長室の机

サンシン電気（東京都練馬区、石井宏宗社長）の社長室には石井が小学生から使う机がある。学習机ではなく重厚感のある役員用大型デスクは、父親が設

サンシン電気

①

立した会社で使用され、石井とともに困難を乗り越えてきた。現在もリフォームしながら使い続けている。石井は机を眺めながらこれまでの会社経営を「不屈の精神が原動力だった」と振り返る。

サンシン電気を中核とする同グループは、電子部品商社や電子回路設計・製造事業、さらにCSV（共有価値創造）による社会問題解決型事業の展開を目指している。1966年に父の故石井雅晴が「新東電気」として創

倒産から完全復活



社長室で机に向かう石井宏宗社長

業した。雅晴は半導体部品に目を付け、東京都・江古田に電子部品会社を設立した。商品化したCB無線機は米

輸出で大ヒット。石井は新東電気について「売上高は50億円を超えるほど急上昇し、現在なら200億円くらいの価値になると思う」と振り返る。飛ぶ鳥を落とす勢いだった。

輸出に大打撃

ところが78年、家族

不屈の精神が原動力

だんらんの中、NHKが新東電気の倒産を速報で伝えた。小学1年生だった石井に「『倒産』の意味はよく分からなかったが、その日を境に周囲の人たちの態度が手のひらを返すように一変した」。第2次オイルショックによる円の急騰で輸出事業が大打撃を受けたのが要因だった。

新会社立ち上げ

父の雅晴は転んでもただで起きるタイプではなかった。「倒産する少し前に、新東電気を分社して新会社『サンシン電気』を立ち上げていた」。社長には新東電気を共に設立した旧知の親友である吉本貞敏が就いた。

自宅の電話が鳴り響き、父が乗っていた高級車も帰ってこなかった。「今思えば、急成長した業績に中小企業の管理能力が追いつかなかったのだろう」と分析する。

父・雅晴が不死鳥のごとく完全復活した一方、石井は「経営に愛憎があり距離を置いていた。実際に、ある会計事務所で働くことを決めていた」。

会社社屋や社用車な

「サンシン」の社名は、主要取引先のサンケン電気と新東電気の組み合わせ。小さいながらも半導体の専門商

▽住所 東京都練馬区向山4の1の5▽代表
 〓石井宏宗社長▽設立
 〓1978年10月18日
 ▽資本金 〓8900万円
 ▽従業員数 〓35人▽
 グループ売上高 〓60億
 円（2020年度）

（敬称略）